

公益社団法人 日本水産学会
平成 26 年度第 6 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 26 年 12 月 6 日(土) 13 時 02 分～15 時 46 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
2 号館 200A-2 会議室 (東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数
総数 17 名、定足数 9 名
- 4 出席理事数 16 名
(本人出席) 荒井克俊、荒井修亮、飯田貴次、香川浩彦、金子豊二、木島明博、
嵯峨直恆、青海忠久、関 伸吾、東海 正、時村宗春、古谷 研、
松山倫也、山下 洋、渡邊良朗、渡部終五
(途中出席) 青海忠久(第 5 回理事会以降の職務執行の状況報告中の 15 時 19 分に着席)
(監事出席) 青木一郎、瀬川 進
(幹事出席) 遠藤英明、田代有里、石田真巳、鈴木美和、塩出大輔
(オブザーバー) 伊藤文成(理事候補者)、大越和加(理事候補者)、佐竹幹雄(理事候補者)

5 議 案

- | | | |
|------|----------|---|
| 決議事項 | 第 1 号議案 | 「名誉会員推薦」の件 |
| | 第 2 号議案 | 「平成 26 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件 |
| | 第 3 号議案 | 「支部設置規程の一部改正」の件 |
| | 第 4 号議案 | 「中部支部支部長の交代」の件 |
| | 第 5 号議案 | 「ベルソーブックス委員会の廃止とそれに伴う規程の一部改正」の件 |
| | 第 6 号議案 | 「会費免除承認」の件 |
| | 第 7 号議案 | 「平成 28 年度秋季大会」の件 |
| | 第 8 号議案 | 「大型アンケートデータ解析報告書に関する要望書」の件 |
| | 第 9 号議案 | 「会員名簿の作成」の件 |
| | 第 10 号議案 | 「Fisheries Science 誌 81 巻における会員購読促進の継続」の件 |
| | 第 11 号議案 | 「平成 27 年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件 |
| | 第 12 号議案 | 「平成 27 年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件 |
| | 第 13 号議案 | 「入会承認」の件 |

- 報告事項 第 5 回理事会以降の職務執行の状況
その他

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

渡部会長が定足数の充足を確認し、続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、渡部会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「名誉会員推薦」の件

東海総務担当理事より、名誉会員推薦に関する説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で、青木宙会員を名誉会員として総会に推薦することを可決した。

第 2 号議案 「平成 26 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

荒井(克)学会賞担当理事より、平成 26 年 9 月 19 日(金)に開催された学会賞選考委員会にお

いて審議した平成 26 年度日本水産学会各賞受賞者について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

日本水産学会賞

吉崎悟朗 「代理親魚技法の構築とその応用に関する研究」

日本水産学会功績賞

佐藤 實 「魚介類エキスの分析など一連の水産化学研究」

日本水産学会進歩賞

赤松友成 「水産生物の音響による行動制御と可視化技術の開発」

浜崎活幸 「海産魚介類の種苗量産技術の開発と資源増殖への応用に関する研究」

吉田天士 「有害・有毒プランクトンに関する分子生理生態学的研究」

水産学奨励賞

伊藤智広 「藍藻類イシクラゲをはじめとする天然物に含まれる機能性成分に関する研究」

宇治 督 「魚類の形態異常とその防除技術に関する研究」

高田健太郎 「海洋生物に含まれる有用二次代謝物の単離・構造決定に関する研究」

三田村啓理 「バイオテレメトリーを用いた水圏生物の回帰・固執行動に関する研究」

村下幸司 「魚類の摂食・消化調節機構に関する研究」

水産学技術賞

青木秀夫 「高品質アコヤガイ真珠の効率的養殖技術の開発と実用化」

佐藤 繁 「麻痺性貝毒の生物化学的変換に基づいた簡易分析法の開発」

深田陽久 「柑橘類を用いた新しい養殖ブリ(香るブリ)の開発」

村上恵祐 「イセエビ類の幼生飼育技術の向上に関する研究」

本議案について以下の質疑応答があった。

関 理事 「日本水産学会賞の受賞可能件数は2件であるが、1件毎に投票で決めているのか。」

荒井(克)理事 「その通りである。今回は2件の推薦に対してそれぞれ投票したところ、1件のみが規定の得票数を得た。」

渡邊理事 「水産学奨励賞と水産学技術賞は受賞可能件数を超えて推薦しているが、説明してほしい。」

荒井(克)理事 「今回は投票の得票数が僅差であり、かつ優れた業績であったことから、予算の許容範囲も勘案して議論した結果、受賞候補者として加えることにした。」

東海理事 「学会賞選考委員会内規では、予算範囲内であれば受賞可能件数を超えて受賞候補者を選考できる旨が記載されている。」

第3号議案 「支部設置規程の一部改正」の件(別紙1)

東海総務担当理事より、支部設置規程の一部改正について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第4号議案 「中部支部支部長の交代」の件

東海総務担当理事より、中部支部長の移転による支部長交代の申し出について説明があった。審議の結果、中部支部長の交代を出席理事全員一致で可決した。

第5号議案 「ベルソープックス委員会の廃止とそれに伴う規程の一部改正」の件(別紙2)

松山ベルソープックス担当理事より、ベルソープックス委員会の廃止とそれに伴う規程の一部改正について説明があった。また、金子理事より規程の一部改正について補足説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第6号議案 「会費免除承認」の件

東海総務担当理事より、斎藤 雄、高島春吉、中村 孝、秦 正弘、森 勝義各会員の会員に関する規則第5条(1)に基づく会費免除申請について説明があった。審議の結果、申請のあった5名の会員の会費を平成27年度から免除することを出席理事全員一致で可決した。

第7号議案「平成28年度秋季大会」の件

荒井(修)近畿支部担当理事より、平成28年度秋季大会についての説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

日 程 平成28年9月8日(木)～9月11日(日)

場 所 近畿大学農学部

委員長 宮下 盛

第8号議案「大型アンケートデータ解析報告書に関する要望書」の件

金子男女共同参画推進担当理事より、大型アンケートの解析報告書のダイジェスト版ならびに日本水産学会の男女共同参画活動のポスターを印刷したクリアファイルを配布する経費支援の要望について説明があった。また、渡邊財務担当理事より財務的な面からの説明があった。審議の結果、解析報告書に関する経費を支援することを出席理事全員一致で可決した。

第9号議案「会員名簿の作成」の件

東海総務担当理事より、平成27年度の会員名簿作成について説明があり、平成28年1月発行、印刷部数600部、販売価格3,500円の提案があった。審議の結果、会員名簿作成を出席理事全員一致で可決した。

第10号議案「Fisheries Science 誌81巻における会員購読促進の継続」の件

東海総務担当理事より、Fisheries Science 誌81巻における会員購読促進の継続について説明があった。審議の結果、会員購読促進の継続を出席理事全員一致で可決した。

第11号議案「平成27年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件

荒井(克)学会賞担当理事より、日本農学賞受賞候補者の推薦について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

第12号議案「平成27年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件

東海総務理事より、平成27年度日本農学会評議員及び運営委員の選出について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

評議員 金子豊二、東海 正

運営委員 木下滋晴

第13号議案「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

(報告事項)

第5回理事会以降の職務執行の状況

・庶務関係

東海担当理事より次の報告があった。

1) 共催及び協賛の件(共催、協賛、後援の取り扱い申し合わせ3)を適用)

第52回アイソトープ・放射線研究発表会

主催 日本アイソトープ協会

共催 応用物理学会 他62学協会(予定)

日程 平成27年7月

場所 東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)

希望 共催

負担金 なし

運営委員 伊藤直樹

海洋調査技術学会第26回研究成果発表会

主催 海洋調査技術学会

協賛 海中海底工学フォーラム 他12学協会

日程 平成 26 年 11 月 12 日(水)・13 日(木)
場所 海上保安庁海洋情報部 10 階国際会議室(東京都江東区)
希望 協賛
負担金 なし
第 7 回生態工学会定例シンポジウム
主催 生物工学会
協賛 照明学会 他 11 学協会
日程 平成 26 年 11 月 7 日(金)
場所 東京工業大学大岡山キャンパス西 8 号館 E 棟 10 階 1001 号室(東京都目黒区)
希望 協賛
負担金 なし

2) 一般社団法人環境放射能除染学会からの講演会共催希望の件

一般社団法人環境放射能除染学会主催講演会「海と放射能」の共催依頼について、会長と総務担当理事とで検討した結果、回答期限までに理事会の開催予定が無く審議できないため、先方へは共催についてコメントできない旨回答したこと、また今後、同様に理事会での議論が必要な依頼があった場合には理事会で審議した上で回答することにしたいとの報告があった。

3) 学会事務職員の期末手当について

学会事務局職員 1 名の産休により、他職員 2 名の超過勤務時間が例年より超えていることが紹介され、12 月の期末手当を職員給与規程別表 4 の 4 項に基づき、会長の決定により期末手当基礎額を 1.2 倍として支給することの報告があった。また、渡邊財務担当理事から、今年度は財政的な面からも問題が無い旨説明があった。

4) 学会事務職員の昇格について

学会事務職員 1 名の職務内容および能力について昇給・昇格に関する基準(平成 22 年 4 月 1 日施行)に基づき検討した結果、平成 27 年 1 月 1 日付で 1 級から 2 級に昇格することとなった旨の報告があった。

・企画広報関係

金子担当理事より、平成 27 年 1 月 14 日(水)に企画広報委員会が開催予定であることが報告された。

・財務関係

渡邊担当理事 特になし

・編集関係

古谷担当理事より、次の報告があった。

1) 1 月開催の委員会で論文賞を選考する。

2) 科研費国際情報発信強化事業について

a) Fisheries Science 誌 81 巻 1 号に総説 2 編が掲載される。

b) 英語版のホームページを作成中である。

c) 海外エディターを新たに 6 名追加する。

3) 論文の取り下げについて投稿規程にどのようにもりこむか議論中である。

4) Fisheries Science 誌や日本水産学会誌に掲載された論文の学位論文への転載許可申請への対応について議論中である。

・学会賞関係

荒井(克)担当理事より、日本水産学会各賞ならびに日本農学賞受賞候補者を選考したことの報告があった。

・シンポジウム関係

松山担当理事より、平成 26 年 11 月 20 日(木)に開催されたメール会議において、平成 27 年度

春季大会において開催されるシンポジウム 2 件、ミニシンポジウム 2 件について審議されたことの報告があった。

・出版関係

木島担当理事より、平成 27 年 1 月 7 日(水)に出版委員会が開催予定であることが報告された。

・水産技術誌監修関係

時村担当理事より、次の報告があった。

- 1) 水産技術誌監修委員会を平成 26 年 9 月 24 日(水)に東京海洋大学において開催した。
 - a) 水産技術の投稿要領等を、編集委員への謝金と査読料の支払いが可能となるように改定した。
 - b) 「水産技術投稿要領」および「水産技術投稿原稿の書き方及び投稿の方法」を初投稿の者でも原稿作成を容易にするための例示を詳細に記載するように改定した。
- 2) 7 巻 2 号は原稿作成終了が 3 報、近日中に終了見込みが 4 報程度のため、刊行は、2 月下旬～3 月上旬を予定している。このため平成 26 年度は 2 号までの刊行となる。
- 3) 企画編集委員会を平成 27 年 1 月 5～14 日の時期に行う方向で調整中である。

・ベルソーブックス関係

松山担当理事 特になし

・国際交流関係

青海担当理事より、次の報告があった。

- 1) 韓国水産科学会との学術協定の更新に向けて作業中である。
- 2) 平成 27 年度春季大会において、アメリカ水産学会会長ならびにイギリス諸島水産学会長が講演することとなった。

・水産教育関係

荒井(克)担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年度春季大会において水産教育推進委員会主催ミニシンポジウムを開催予定である。
- 2) 平成 27 年 4 月 22～24 日に上海海洋大学において開催される第二回水産(養殖・漁業)教育に関する国際シンポジウムへ、委員長の天野勝文会員を派遣する予定である。

・水産政策関係

山下担当理事より、平成 27 年 3 月 31 日(火)にミニシンポジウム「調査捕鯨と ICI 判決」を開催予定であることの報告があった。

・漁業・資源管理関係

渡邊担当理事 特になし

・水産利用関係

渡部担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 10 月 23 日(木)に水産総合研究センター中央水産研究所において、第 2 回水産利用懇話会委員会が開催された。
 - a) 第 2 回講演会のテーマとして、国内の水産資源を持続的に利用するための企画を検討している。
 - b) 次回委員会は平成 27 年 1 月もしくは 2 月の開催を予定している。
- 2) 第 2 回委員会と同日に第 1 回講演会を開催した。「安全な二枚貝を食卓へ」をテーマとし、2 題の講演を行った。参加者は会員 13 名、会員外 14 名であった。

・水産増殖関係

木島担当理事より、平成 27 年度春季大会期間中に委員会が開催される予定であることの報告があった。

・水圏環境関係

山下担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年 2 月 7 日(土)に「水産環境をめぐる最近の急激な国内外の展開」をテーマとした水産

環境ジョイントシンポジウムを企画している。

- 2) 平成 27 年 3 月 27 日(金)に「炭素窒素同位体で紐解く沿岸生態系の生物学的諸過程」をテーマとしたシンポジウムを開催予定である。
- 3) 平成 26 年春季大会において開催されたシンポジウム「地震・津波から 3 年後の東北地方太平洋沿岸域の現状 天災による自然攪乱と修復による人為的攪乱」の内容が、月刊海洋から特集号として 2 分冊で出版予定である。

・社会連携関係

嵯峨担当理事 特になし

・将来計画関係

古谷担当理事 特になし

・男女共同参画関係

金子担当理事 特になし

・北海道支部

嵯峨担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 12 月 19 日(金)・20 日(土)に支部大会を函館市国際水産・海洋総合研究センターにおいて開催予定である。
- 2) 日本水産学会春季大会の担当支部について意見を集約した結果、本支部としては「担当が想定される関東支部の 6 つの機関の理解が得られることを前提として、原則的に関東支部の 6 機関の持ち回りとするに賛成する」との結論になった。

・東北支部

担当理事欠席のため、渡部会長から次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 10 月 30 日(木)に第 23 回全国水産・海洋系高校生徒研究発表東北地区大会に東北支部として支部長が参加し、支部長奨励賞(賞状)を授与し講評を行った。また、副賞の盾を送付した。
- 2) 平成 26 年 11 月 7 日(金)・8 日(土)に東北支部大会を秋田市において開催した。7 日(金)はミニシンポジウム「東北沿岸の磯根漁業の再生に向けた新たな取り組みと研究の現状」、8 日(土)は一般発表を行った。一般発表数は 23 題と例年より多く、参加者数は 60 名を超え、盛況であった。
- 3) 日本水産学会春季大会の担当支部について意見を集約した結果、本支部としては「北里大が支部から離れたこともあり、春季大会を引き受けることは困難である。関東支部が担当されることを希望する」との結論になった。

・関東支部

時村担当理事より、次の報告があった。

1) 事業計画についての経過

- a) 水研センターが集約している都県の水産研究機関のニーズ等から、事務局としてシンポジウムのテーマ候補を抽出し、関連する研究の進捗状況、関東支部で開催することの妥当性等を勘案して絞り込み作業中である。なお、シンポジウムの開催は次年度を予定している。
- b) 若手の会の活動(平成 27 年度春季大会に開催されるミニシンポジウムへの研究者の招聘)に、次年度予算から 5 万円支援する。

2) 平成 27 年度春季大会の準備状況

- a) 春季大会の案内を日本水産学会誌 80 巻 6 号会告欄に掲載した。
- b) 12 月 8 日(月)から学会ホームページ事前参加申し込み受付を開始する。

- 3) 日本水産学会春季大会の担当支部について意見を集約し、支部担当理事として、以下のようにまとめた。なお、幹事数 44 のうち回答数 23(日大が機関決定であることを勘案すれば 25)であった。

- a) メールでの意見集約結果では、「春季大会はすべて関東支部で開催するように変更する」こと

に賛成する意見が多かったため(賛成数 12)、支部として二者択一の意味表示を学会事務局から求められるのであれば、この意見を関東支部の意見とする。

- b) ただし、上記の賛成意見に対する反対意見も多く、さらに、賛成する場合でも、その理由については、現行の仕組み(一巡に 1 回は他支部で開催)の変則性を問題視するものもあったものの、多くの意見は、他支部の負担を勘案したもの、及び、(総会も含めた)参加者数の減少を懸念するものであったことから、他支部が開催を希望し、さらに、参加者数の確保の見通しも立つ場合には、他支部で春季大会開催ができるルールでも良い。
- c) 他支部での春季大会開催を認める方向で議論する場合には、他支部の負担(会場等)を軽減する仕組み(財政的支援)構築等を理事会で検討しても良い。

・中部支部

飯田担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 11 月 8 日(土)に支部大会を金沢市内で開催した。参加者は会員 38 名、会員外 17 名であった。口頭発表 10 題、ポスター発表 9 題、ミニシンポジウム「七尾湾の環境と漁業」を開催した。併せて支部幹事会を開催した。また、支部長賞 1 名および 40 歳以下の発表者に対する優秀発表賞(口頭 1 名、ポスター 1 名)の表彰、支部長賞記念講演を行った。
- 2) 日本水産学会春季大会の担当支部について意見を集約した結果、「関東支部以外の支部が担当することに賛成する意見は無く、春季大会については関東支部に担当をお願いしたい」との結論になった。

・近畿支部

荒井(修)担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 11 月 22 日(土)に幹事会を開催した。
 - a) 日本水産学会春季大会の担当支部について意見を集約した結果、「春季大会については関東支部のみの担当に異論は無い」との結論になった。
 - b) 来年度の支部例会は 7 月に若手を中心とした取り組み、12 月に例会を行うことを決定した。
- 2) 幹事会に引き続き支部例会を開催した。「先達の知恵と経験を若手・中堅水産研究者と技術者へ」をテーマとした特別講演 2 題、一般研究発表 11 題、若手研究者の発表 9 題の中から 3 題に対し優秀賞の表彰を行った。

・中国・四国支部

関担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 11 月 29 日(土)・30 日(日)に支部例会を高知大学農学部で開催した。29 日には一般研究発表 17 題、高校生によるポスター発表 3 題があった。一般研究発表の中から 35 歳以下の研究者 1 名ならびに高校生のポスター発表 1 題に対しそれぞれ優秀賞を授与した。30 日はミニシンポジウム「魚介類養殖の付加価値化」を開催し、5 題の講演を行った。
- 2) 日本水産学会春季大会の担当支部について意見を集約したところ、地方開催も可能という意見が若干あったが、関東支部での担当を希望する意見が大勢であった。また、何人かの幹事から、例年の開催時期だと参加が難しいため、開催時期を早める可能性を問う意見があった。

・九州支部

香川担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 26 年 11 月 8 日(土)に支部幹事会を開催した。
 - a) 平成 26 年度の支部大会、総会は、平成 27 年 1 月 10 日(土)に宮崎市市民プラザで開催する。併せて第 3 回幹事会も開催する。
 - b) 事業計画の見直しとして、これまで年 3 回開催していた幹事会を 1 回、シンポジウムと大会を 1 回にして 11 月上旬に 2 日程度の日程で開催することが幹事会で了承され、支部総会に上程することとなった。
 - c) 日本水産学会春季大会の担当支部について意見を集約したところ、「春季大会は関東支部の

持ち回りで行うこととし、これまで行われていた関東支部以外の春季大会担当を無くす」という意見を理事会に提案することとした。

- 2) 支部幹事会と併せて支部例会、公開シンポジウム「九州における攻めの水産業(戦略的養殖業)の現状と将来」を開催した。高校生や一般市民も含め約 80 名の参加があり盛況であった。

・英文書籍監修委員会(特別委員会)

東海担当理事より、次の報告があった。

- 1) 閉鎖系循環式養殖システムに関する企画についての原稿がほぼ集まった。
- 2) 水産資源関係の企画について、シュプリングと連絡を取りながら進めようとしているところである。
- 3) 本の表紙について検討を始めたところである。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)

渡部会長より平成 26 年 12 月 7 日(土)に開催された第 11 回委員会について、次の報告があった。

- 1) 学会ホームページ内の災害復興支援拠点ページに水産総合研究センター復興対策現地推進本部からの報告を追加することとした。なお、支援拠点ページの各種報告の内容にはコメント、解説、あるいは予想などを加え、読者の興味が湧くような内容にすることとした。その内容についてはメールで審議した上で、ホームページに掲載することとした。
- 2) 関連する委員会については、水産政策委員会からエコラベルに関する話題提供、水産環境保全委員会からは担当理事の報告の通り、企画広報委員会からは特になかった。
- 3) 日本学術会議からは第 23 期に関すること、水産・海洋科学研究連絡協議会からは 11 月に開催されたシンポジウムの報告があった。
- 4) 放射能汚染問題に関し、シンポジウム等の開催可能性について検討課題となった。
- 5) 今後の委員会の取り組みについて、i) シンポジウムの開催、ii) 平成 25 年 6 月に刊行された小冊子の続編の刊行、を企画している。i)については、主催が日本水産学会理事会、東北マリンサイエンス拠点形成事業、水産総合研究センター復興対策現地推進本部、共催は東日本大震災災害復興支援検討委員会(特別委員会)、水産環境保全委員会、災害復興支援拠点、日本学術会議食料科学委員会水産学分科会、水産・海洋科学研究連絡協議会、関係する大学等、後援を文部科学省、環境省、宮城県、岩手県、福島県に願います。日程は平成 27 年度秋季大会の前日に東北において開催を検討中である。次回理事会に提案する予定である。
- 6) 次回の委員会は平成 27 年 3 月 7 日(土)を予定している。

・水産学若手の会(特別委員会)

渡部会長より、次の報告があった。

- 1) 平成 27 年度春季大会に開催するミニシンポジウムに海外から演者を招聘するための旅費として、関東支部から 5 万円、国際交流委員会から 5 万円の計 10 万円の支援があることを若手の会の代表者に伝えた。

- 2) 平成 27 年度春季大会期間中に出版企業のプレゼンテーションを計画している。

・日本水産学会 85 周年記念事業委員会(特別委員会)

渡部会長より、平成 26 年 11 月 20 日(木)に第 3 回委員会が開催されたこと、および次回委員会は国際シンポジウム実行委員会と合同で平成 27 年 2 月 7 日(土)に開催するとの報告があった。

・水産・海洋科学研究連絡協議会関係

東海総務担当理事より平成 26 年 11 月 20 日(木)に開催された第 2 回水産・海洋科学研究連絡協議会について、次の報告があった。

- 1) 日本学術会議の提言「東日本大震災から新時代の水産業の復興へ(第二次提言)」について報告があった。
- 2) 平成 26 年 11 月 21 日(金)に日本学術会議主催の公開シンポジウム「東日本大震災からの水産

業および関連沿岸社会・自然環境の復興・再生に向けて(第2回) - 日本学術会議の第二次提言を踏まえて - 」が水産・海洋科学研究連絡協議会の共催で開催された。

- 3) 日本学術会議の報告「大学教育の分野別保証のための教育課程編成上の参照基準 農学分野(案)」が出された。
- 4) 日本学術会議の第23期の分科会に水産学関係の分科会の存続について話がされているという報告があった。
- 5) 平成26年11月21日(金)に開催された公開シンポジウムについては、マスコミにあまり取り上げられなかったことから次回の協議会の際にプレスリリースに関して提案したい。

その他

・事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

東海総務担当理事より、事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について説明があり、日程に沿って各支部、懇話会及び委員会に対応して欲しいとの依頼があった。

・次回理事会の開催について

東海総務担当理事より、次回第7回理事会は平成27年2月7日(土)13時から、国立大学法人東京海洋大学品川キャンパスで開催する予定である旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時46分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成26年12月6日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監事

監事

